

平成 28 年 7 月 25 日

## 第 12 回 健康づくり推進協議会 議事録

全国健康保険協会福島支部

### I. 開催日時

平成 28 年 7 月 12 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

### II. 開催場所

ユニックスビル 8 階 第 1 会議室

### III. 出席委員 (敬称略)

福島 哲仁 議長 (公立大学法人福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座 教授)

杉浦 弘一 (国立大学法人福島大学 人間発達文化学類 スポーツ・芸術創造専攻  
スポーツ探究コース 准教授)

五十嵐 康子 (福島県 県北保健福祉事務所 健康福祉部主幹)

田村 正美 (福島県 県北保健福祉事務所 健康福祉部主任栄養技師)

二瓶 重信 (株式会社 二嘉組 代表取締役)

春日 賢 (株式会社 フクシマ・フロンティア・ヒグチ 取締役副社長)

菅野 美佳 (株式会社 三本杉ジオテック 総務課 課長)

横井 ナオミ (株式会社 福島製作所 総務課 課長代理)

### IV. 議題

#### 1. データヘルス計画 (27～29 年度) について

- (1) 「健康事業所宣言」を行う事業主が増える
- (2) 高血圧治療者への受診勧奨を行い、喫煙者に対しては禁煙を勧奨する
- (3) CKD (高血圧、糖尿病) の重症化予防を自治体・医療機関と連携して行う

#### 2. 平成 27 年度事業報告、平成 28 年度事業進捗状況

- (1) 特定健康診査
- (2) 特定保健指導

### V. 支部長あいさつ

ご多用中の出席に御礼申し上げます。また、本日の主な議題である「健康事業所宣言」事業について、忌憚のないご意見をいただきたい。

<その他事項>

- ・外部接続遮断に関する現状
- ・地域医療構想の今後
- ・支部が行う事業所の認証表彰制度
- ・自治体との連携状況

## VI. 議長ごあいさつ

本日の協議会は、協会けんぽ福島支部の保健事業に対し意見をすることとなります。また、各委員の立場から参加する事業の状況や課題を支部と共有し、支部が記録することも重要な事項の一つといえます。忌憚ない活発なご意見をお願いします。

## VII. 議事

### 1. データヘルス計画（27～29年度）について

議長 健康事業所宣言アンケートの項目で、「学べた、再確認できたこと」「取り組みによる社内の変化」等の選択肢には、「無かった」が必要ではないか。

事務局 検討したい。

委員 セミナーアンケートの「検討中」という回答は、何が不足しているためなのか。方法がわからないのか、宣言するか否かがわからないのか。

事務局 概ね、後者と感じている。無難な選択をしている傾向がある。

委員 行動変容理論に沿って、それぞれの要因を数値化し、適正な時期にアプローチする方法も提案したい。

議長 健康事業所宣言について、事業者の立場ではいかがか。

委員 当初は、ハードルが高い印象があった。自社で取り組むことができるかといった不安があった。宣言する前に、具体策をイメージ、選択できるような事例集があれば、エントリーに繋がるのではないか。

事務局 現在、取材活動を行い、公表することを活発に行っている。

委員 例えば、生産性などに影響のある欠勤が減った、職場が明るくなったなどの改善があった事業所を紹介してはどうか。取材した印象はどうだったのか。

事務局 定期的な血圧および体重測定を目標に掲げ、実践している事業所からは、次回は飲酒量の適正化に取り組むといった意欲が感じられた。総じて、「話題になった」などコミュニケーションが増加したという印象の事業所が多かった。

委員 当社では、従業員同士のコミュニケーションが増加した印象がある。経営者の立場では、入札参加資格や次世代育成事業に対するポイントの加算が有益であると考えているが、「健康事業所宣言」事業は従業員のコミュニケーションの増加が最も有益であった。

委員 経営者の立場として、従業員の欠勤や業務上の事故に対するリスク管理を行うことは

重要なことである。福島健康度でワースト1位の項目が多く、健康づくりを行わなければならない。従業員の健康管理は、労務管理の一部であり、重要であると考えられる経営者が増えている。しかし、何をしたら良いのかわからないのが実態ではないか。

委員 パンフレットを読み、事業で実行する内容は理解できた。しかし、事業を行ってみて当初の理解と差異があり、実務担当者として少々負担感があるのも現実である。経営者が宣言事業を知り、自社の取り組みを把握することで、事業所内の健康づくりの風土が高まり推進するのではないか。

事務局 現在エントリーをしていない事業所の経営者や役員に対し、支部幹部によるトップセールスを行っている。併せて実務担当者の方にも理解いただくよう進めていく。

委員 7月5日に福島県建設業協会県中連協として、協会けんぽと「健康セミナー」を開催した。講師に県立医科大学大平教授を招き、「笑いとストレスマネジメント」の講話を行った。その際、健康事業所宣言について支部長が説明され、事業を知ったや理解したという参加者もいた。参加者の感想は良好で、有意義な研修を開催できた。

委員 職域向けセミナーは常に人が集まらない状況である。健康であることは重要であるが、企業としては最優先ではないのかもしれない。従業員が健康な事業所のイメージを良い会社としてハローワークなどにPRの協力を得てはどうか。

事務局 パンフレットの設置は内諾を得ており、順次進めていく。企業が求人票に宣言事業所である旨、記載できることも検討をした。しかし、宣言したすべての事業所に、実態が伴う健康度があるか、また支部として認証制度を設計中であり今後検討を重ねていく予定である。

議長 エントリーする際に、4つの選択肢があるのは良いが、ハードルが高いといった、不安があるのではないか。事業所の規模、形態に合わせて実行できること、できないことがあるようだ。低いハードルから参加できることを更に周知することが必要なのではないか。

委員 スタートブックから、当初の目標は運動としたが、急激な運動ができない者がいるということを保健師からアドバイスがあった。いつでも事業所の担当保健師に相談できることは、ありがたい。エントリーすると、担当保健師からのサポートがあることの流れをもっと示してはどうか。

委員 産業医の研修会などで「健康事業所宣言」事業を協会けんぽが行っていることを周知し、産業医からも事業所へ働きかけていただくことはできないか。

委員 「運動の推進」はスポーツと連動しがちでハードルが高いかもしれない。「日常の身体活動を増やす」などの表現方法をパンフレットの校正がある際に参考にしてほしい。

## 2. 平成 27 年度事業報告、平成 28 年度事業進捗状況

委員 労安定期健診データの取得率が低迷しているのは、全国的な傾向か。

事務局 高い支部で 15%、12%、10%と全国的な傾向と考えている。

委員 勸奨結果を見ると労安定期健診データ取得勸奨事業で、不同意とした事業所が多いが要因は何か。メリットを検討していくのか。28 年度実施目標が高いのではないかと感じた。

事務局 事業所側、データを作成する健診機関側それぞれに要因がある。

事務局 事業主には特定健診項目の提供の義務がある。不同意の根本は提供後のメリットが見えない、手間がかかるなどではないか。メリットを PR しているが、伝わっていないのか、不足しているのかという段階である。

議長 提供作業は手間がかかるのか。

事務局 受診した健診機関によって、健診機関がデータを作成するか、健診結果のコピーを取るか、違いがある。

議長 データを作成できる機関の労安定期健診データ結果の取得を優先して行うこと。

事務局 はい。生活習慣病予防健診契約機関が 66 だが、労安データを作成できる覚書機関が 23 という現状で進みにくい環境にある。66 機関から覚書締結機関の増加も併せて進めていきたい。

## VIII. 議長まとめ

### <「健康事業所宣言」事業の増加>

1. 事業所がエントリーするにあたって、ハードルの高さを感じている可能性がある。このため、エントリー後に事業所に合った、実行性のある具体的な取り組みについて「保健師に相談できる場」があることを PR すること。
2. 事業所のメリットとして、「健康状態の向上」は効果があるが、メリットのカテゴリを広げ「従業員間のコミュニケーションの向上」、「チームワークの向上」さらには「出勤率の向上」など、アンケートや調査を行い公表することで、効果の意識づけにすること。
3. わかりやすいパンフレットであるが、担当者の負担が大きい。経営者が事業を認識することで、事業所一丸となった取り組みとなることから、意識付けとして代表者、部長、実務担当者へトップセールスを継続して行うこと。

4. 事業所のイメージアップがロイヤリティになるようPRをすること。併せて、ハローワークに広報の協力を得て来所者に周知する方法を検討すること。また、認証制度を構築し、事業に重みをもたせること。
5. 産業医などの専門職の研修会等で「健康事業所宣言」事業に取り組んでいることを紹介すること。

<参考事項>

- ①パンフレットの「運動の推進」という表現を、「身体活動の増加」を参考にすること。
- ②アンケート回答項目に、否定的な「なかった」等の項目を入れること。
- ③労安定期健診データの取得は、手間のない提供方法の事業所から、メリットをPRすることで取得を進めること。